



中部電力

作業現場の感覚を伝える・保存する

# ハプティクス（触感）技術により 設備の保守業務を支援します。

## 背景・目的

- 電力設備の巡視・点検時に、ベテラン作業員は五感を活用して設備の不具合を感じ取っている。
- 一方では、電力設備の保守技術の高度化が図られた結果、若年層の社員は設備の不具合を経験する機会が少なくなりつつある。
- 電力設備の不具合調査等において、音や映像（聴覚・視覚）に加えて振動（触感）情報を同時取得することで、臨場感のある情報の保存や共有が可能になることを期待します。

## 特長

- 聴覚・視覚・触感情報を同時に取得
- 情報を遠隔地に無線送信
- 情報を電子データとして保存・再生

## 用途

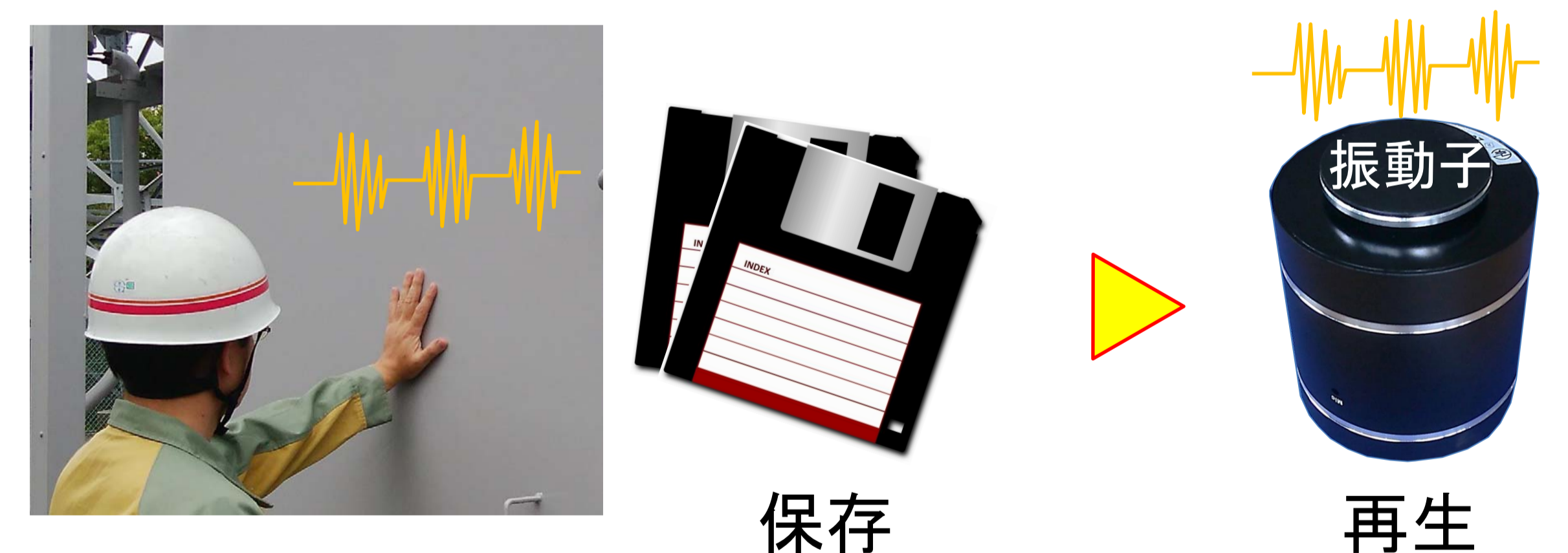
- 巡視・点検による電力設備の不具合発見時に、臨場感のある障害情報を遠隔地に伝送・共有可能
- 保存・蓄積された電力設備の不具合事象データを再生する（疑似体験）ことで、五感を刺激した教育や技能継承が可能



触感再現装置の例



触感の遠隔伝送



不具合設備の触感の再生（疑似体験）による技能教育

## 開発者の ひとこと

視覚・聴覚・振動情報が一体になることによって、「触感」が認識され、臨場感を共有することができました。また、被験者が過去にその「触感」を経験したことがあるか否かによっても、臨場感に違いが生じることが判りました。